教員紹介

建築・都市空間の「美」を追求する研究

第８回目の教員紹介では、人間文化創成科学研究科自然・応用科学系准教授の元岡展久先生をご紹介させていただきます。

元岡先生は、大学院ではライフサイエンス専攻、また、学部では生活科学部人間･環境科学科ご所属で、建築設計学をご専門とされています。今回は先生のご研究にあわせて、最近、グッドデザイン賞を受賞されたユビキタスコンピューティング実験住宅「Ocha House」についてお話を伺いました。

Nobuhisa Motooka
元岡 展久

今やっていることが、すぐ何かの役に立つという目先の結果に先走るのではなく、逆に役立つことを見つけるぐらいの気持ちで、いろいろなことに興味を持って接して欲しいですね。

Q. 先生のご専門は何ですか。

A. 建築設計、いわゆる建築デザインが専門です。建物を作るときにはさまざまな条件があります。たとえば、耐震性の高い安全な建物にしたい、子ども部屋はいくつ欲しい、明るい家にしたい、でも予算には限りがあるし、土地も大きくない。そうしたいろいろな条件を考えながら、目的にあった建物を作るプロセスが建築デザインの専門家の仕事です。

建築の分野は、大きく分けて、建築構造、建築材料、建築計画（人間の行動や用途にあった建築を考える）、環境設備（空調や電気、衛生設備）、建築史などがあります。これら、各専門分野の意見を整理し、総合して建物をつくりあげていくのが建築デザインの役割です。だから、建築デザインの専門家が「こういう建物を建てたい」というアイデアを最初に描いていないと、プロジェクトが進まないですね。

Q. 先生の研究室ではどういうことをテーマとされているのですか。

A. 簡単に言うと、「美しい建築とは何か」ということを考えていく研究室です。歴史的な建築物やある地域の建築物から、「美しい」とか「後世に影響をあたえた」と思われる対象を見つけ出し、調査します。なにが美しいのか、なにが影響を与えたのかについて、類似例を比較しつつ、共通する建築的特徴を探します。そして、その特徴と当時の社会や思想などとの関連を明らかにしていきます。「どうあれば美しいのか」「なぜそのような建物が建てられたか」という分析から得られた知見を、今後、新しい建物を作っていくときに生かしていく、これが私の研究テーマです。

先ほども言ったように、建物を作るときには、さまざまな条件がかかわります。これらの条件に優先順位をつけて考えていくわけですが、その基準は、社会や技術、経済の状況によって変わります。歴史やフィールドの調査によっ

て、建物がなぜそのように建てられたのかという背景が見えてきます。そこからどういう考え方で建築を創造していくべきかを研究するのは、将来の建築物のあるべき姿を想い描くためにも、必要なことなのです。これが、大学に建築デザインの研究室がある意味かもしれませんね。

Q. 最近、取り組まれているご研究は何ですか。

A. ユビキタスコンピュータを使った未来型住宅のプロジェクト[※1]を理学部情報学科の先生方と共同ですすめています。実際に住宅を建設し、その中に、生活を支援するユビキタス情報機器を入れ、実際の生活の中で実証していくという研究をおこなっています。「Ocha House」というこの住宅は2009年3月に完成し、この10月には、グッドデザイン賞[※2]を受賞しました。

※1 ユビキタスコンピューティング実験住宅「Ocha House」:「女性が進出できる新しい研究分野の開拓」事業の一環である「生活者の視点を重視したユビキタスコンピューティング住宅の研究」のなかで計画、建設された住宅。生活を対象としたコンピューティングのための実験住宅建設は、国内の大学では初めての試みです。

※2 グッドデザイン賞:1957年に通商産業省(現経済産業省)によって「グッドデザイン商品選定制度(通称Gマーク制度)」が創立されました。現在、財団法人日本産業デザイン振興会がひきつぎ、豊かな生活と産業の発展を求め、毎年優れたデザインを選定し「グッドデザイン賞」を与えています。

Q. 最後に、お茶大生にメッセージをお願いします。

A. 学生さんには、発想力豊かな人になって欲しいですね。たとえば、建築デザインでいうと、どういう建物を作りたいかというイメージが最初にないと建物はできません。与えられた課題について、調べることはできても、オリジナリティーあるアイデアを発想するのが苦手な人が多いように思います。そうしたアイデアは、日頃からいろいろなことに関心を持つということではないでしょうか。今やっていることが、すぐ何かの役に立つという目先の結果

に先走るのではなく、逆に役立つことを見つけるぐらいの気持ちで、いろいろなことに興味を持って接して欲しいですね。

インタビューを終えて

建築について知識のない私に対しても、丁寧にわかりやすく、ご専門についてお話くださいました。元岡先生のお話を伺い、どういう人がどういう想いで、この建物を作ったのだろうと、建築物を見る目が少し変わりました。未来型住宅「Ocha House」の今後も楽しみです。みなさまも、機会があればぜひ訪れてください。

聞き手: 赤松　利恵
(人間文化創成科学研究科自然・応用科学系　准教授)

ユビキタスコンピューティング実験住宅「Ocha　House」

教員紹介

建築・都市空間の「美」を追求する研究